

第74回 理事会議事録

1. 日 時 令和4年3月1日(火) 13時00分～15時10分
2. 場 所 WEB会議(ZOOMシステム)
アルカディア市ヶ谷
3. 出席者
- | | | | |
|-------|--------|-------|--|
| 会 長 | 井上 圭三 | | |
| 副 会 長 | 後藤 直正 | 楠 文代 | |
| 常務理事 | 中村 明弘 | 浜岡 純治 | |
| | 加留部 善晴 | | |
| 理 事 | 亀井 美和子 | 元木 和幸 | |
| | 田中 芳夫 | 堅田 利明 | |
| | 佐川 賢一 | 越前 宏俊 | |
| | 岩城 正宏 | 宮田 興子 | |
| | 篠塚 和正 | | |
| 監 事 | 富田 基郎 | 市川 厚 | |
| 参 与 | 乾 賢一 | 本間 浩 | |
- 出席理事数 15名
会場出席 3名 WEB出席 12名

4. 議事の経過の要領及びその結果

定款の規定に基づき井上会長が議長に就任し、本日の出席理事が15名であり、定款に定める定足数を満たしており、本理事会が有効に成立していることが宣言された。また、議事録署名人として出席理事から、岩城理事を指名し、事務報告の後、議案の審議に入った。

(1) 前回議事録の確認について

前回議事録(第73回理事会:令和3年11月30日開催)について、全会一致でこれを承認した。

(2) 役員の改選に伴う手続きについて

小池事務局長から、資料3に基づき、役員改選に伴い各大学へ依頼する「議決権を有する者の届出及び理事候補者の推薦」について説明があり、本日付で各大学へ通知することが了承された。

また、井上会長から、投票終了後の開票及び開票結果確認のための立

会人について、その指名を会長に一任願いたい旨提案があり、これを了承した。

(3) 学校法人問題検討委員会の検討結果について

楠副会長(学校法人問題検討委員会委員長)から、本件は「学校法人ガバナンス改革会議」の最終報告に向けた内容について、第73回理事会(令和3年11月30日開催)において、意見が出されたことを受け、同委員会においてその対応を検討することになった等の説明があった。

次いで、12月9日に開催した同委員会の検討結果については、既に、役員宛に通知しているが、改めて資料4に基づき以下の報告があった。

- 1) 「学校法人ガバナンス改革会議」の報告内容に対する意見表明等については、本協会加入の大学が加盟する「日本私立大学団体連合会」において、私立大学全体の意思を反映した形で統一的な意見表明等が行われるものと考え、日本私立薬科大学協会の立場では行わない。
- 2) 「学校法人ガバナンス改革会議」の最終報告書の内容は、今後の大学運営にも大きく影響する事柄として、大学はもとより、学内にも周知、情報の共有化を図る必要がある。

また、関連して資料8「学校法人制度改革特別委員会」に関する報告があった。これは、「学校法人ガバナンス改革会議」の最終報告を受け、文部科学省が私学関係団体の代表者を中心メンバーとする会議を設置したものであり、今後の検討状況については、引き続き注視していく必要がある。

(4) 広報誌「6年制薬ガイド2023」の刊行について

井上会長(広報誌編集委員会委員長)から、今回発行した広報誌の掲載内容(「生命をささえる薬剤師」として、病院と薬局の薬剤師が連携してがん治療に関わる例(国立がん研究センター東病院)、ダイヤモンド・プリンセス号のコロナ禍における災害医療に関わる例(国立病院機構大阪医療センター))を取り上げたこと。また、コアカリキュラムに基づく大学での学び、研究室の紹介、卒業後の進路について掲載している旨の報告があった。

次年度に発行する内容は、薬学教育モデル・コア・カリキュラムが改訂されることに伴い、大幅な変更を予定している等の報告があった。

(5) 薬学教育協議会について

本間参与(薬学教育協議会代表理事)から、資料5に基づき、これまで日本薬剤師研修センターで実施していた、認定実務実習指導薬剤師の申

請受付及び認定業務については、本年4月以降、薬学教育協議会へ移行・実施することが決定したことから、これに伴う業務を、本年4月以降に開始する予定である等の説明があった。

(6) 薬学共用試験について

中村常務理事(薬学共用試験センター試験統括委員会委員長)から、資料6に基づき、「2021年度薬学共用試験 CBT 本試験」の全国結果について報告があった。

(7) その他

1) 文部科学省委託費「6年制薬学教育制度調査検討委員会」の検討状況について

井上会長から、資料7に基づき、同検討委員会による検討状況について、以下のとおり報告があった。

- ・薬学教育モデル・コア・カリキュラムキャッチフレーズ
- ・薬剤師として求められる基本的な資質・能力(案)
 - 「1. プロフェッショナリズム」の中で、健康被害の防止について薬剤師の使命ということが明確に示されるよう一部修正を行う。
- ・薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた基本方針(提案)
- ・大項目A~Gと中項目、小項目のリスト(案)
 - 第2回薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会(3月7日開催予定)において、大項目A~Gと中項目、小項目のリスト及び「薬学教育モデル・コア・カリキュラム(素案)」が提示される予定である。
- ・6年制薬学教育向上のための紙上インタビュー、アンケート調査のまとめ(対象:薬剤師、医師、歯科医師、看護師)

2) 令和3年度文部科学省委託費の経費の一部を日本私立薬科大学協会が負担することについて

井上会長から、令和3年度文部科学省委託費「大学における医療人養成の在り方に関する調査研究」の経費の一部を本協会が負担することとなった経緯等について、以下のとおり説明があり、これを了承した。

- ①本委託費は、本協会が窓口となって申請・採択され、予算執行を行っている。令和3年度予算額は1千万円が計上されたが、予算執行の段階で文部科学省から交付された金額は、6百万円であった。

- ②令和3年度事業を実施する中で、現時点での経費総額を推計すると、交付額6百万円に対し、約3百万円程度の不足が見込まれる。これは、薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂の決定が、日程的にも詰まっていることから、文部科学省の要請で、同検討委員会・幹事会等の会議開催が頻繁に開催されることとなり、予定を大幅に上回るものとなった。
- ③本事業の実施に当たって、検討される薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂の内容は、本協会及び加盟大学にとって、今後とも直接関係性の深い取り組みであること、また、本幹事会等のメンバーは、私立大学関係者が多く参画しており、検討の過程で本協会の意見も十分反映されること等から、経費負担については止むを得ないものとした。

5. その他

(1) 薬学系人材養成の在り方に関する検討会（第2回）について

井上会長から、資料9に基づき、令和3年12月24日に開催された同検討会について、以下のとおり報告があった。

- ・薬学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂については、日本私立薬科大学協会が窓口となり、文部科学省委託事業「令和3年度大学における医療人養成の在り方に関する調査研究」として検討が行われている。ここでは、「薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた基本方針（提案）」「薬学教育モデル・コア・カリキュラム・キャッチフレーズ」「大項目A～Fと中項目、小項目のリスト（案）」等の素案が提案された。今後は、「薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会」を設置し、さらに詳細な検討を進めていく。
- ・同検討会の下に設置された「薬学部教育の質保証専門小委員会」は、「薬学部教育の質保証に係る調査に関する中間とりまとめ（案）」を行った。

(2) 薬学部教育の質保証専門小委員会について

乾参与（同委員会座長）から、資料10に基づき、「薬学系人材養成の在り方に関する検討会」の下に設置された同小委員会において、「薬学部教育の質保証に係る調査に関する中間とりまとめ（案）」を、公表した。今後も引き続き検討を行い、本年夏を目途に最終的な取りまとめを行う旨報告があった。

(3) 新薬剤師養成問題懇談会（第 21 回）について

井上会長から、資料 11 に基づき、令和 4 年 2 月 14 日に開催された同懇談会について、以下のとおり報告があった。

・薬学部定員の適正化について

日本薬剤師会、日本病院薬剤師会から、薬学部定員抑制に向けた対応を急ぐよう求める意見があったが、文部科学省としては、「薬学系人材養成の在り方に関する検討会」においてそのあり方を議論しており、国としてどのように考えるか、今夏までに方針を検討したい旨回答があった。日本私立薬科大学協会としても、定員抑制については、重要な問題としてとらえている。

・薬剤師偏在問題と病院薬剤師不足問題について

日本病院薬剤師会から、病院薬剤師の確保は喫緊の課題である旨の発言があった。

・薬学部において充実した臨床教育ができるようにするための環境整備について

日本薬剤師会から、臨床教育の充実のために種々の改善が必要である旨の発言があった。

(4) 薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会(第 11 回) について

井上会長から、資料 12 に基づき、令和 4 年 1 月 20 日に開催された同検討会について、以下のとおり報告があった。

・薬剤師及び薬局に関する改正薬機法の施行状況等について

・検討会の取りまとめへの対応状況等について

文部科学省から「薬学系人材養成の在り方に関する検討会」の小委員会が取りまとめた「薬学部教育の質保証に係る調査に関する中間取りまとめ（案）」を公表したことが報告され、それについて議論が行われた。

・薬局薬剤師の業務等に関する今後の検討の進め方（案）について

(5) 薬学実務実習に関する連絡会議（第 13 回）について

井上会長から、資料 13 の基づき、令和 4 年 1 月 7 日に開催された同連絡会議について以下のとおり報告があった。

・薬学実務実習の現状等について

・薬学実務実習ガイドラインについて

・本会議実施期間終了後の新たな協議の場の検討

上記に関し、本間参与（薬学教育協議会代表理事）から、これま

でも薬学実務実習に関する業務を薬学教育協議会が所掌してきたことから、本協議会が新たな協議の場となることを検討する旨の発言があった。

- (6) 令和4年度予算(案)の概要(文部科学省、厚生労働省)について
文部科学省及び厚生労働省の令和4年度予算(案)の概要が、参考資料として配布された。

令和4年3月31日付で、京都薬科大学学長を退任される後藤直正副会长並びに神戸薬科大学学長を退任される宮田興子理事から、それぞれ副会长、理事退任の挨拶があった。

議長は、以上をもって議案の全部の審議を終了した旨を述べ、
15時10分閉会を宣言した。

以上の議決を明確にするため、本議事録を作成し、議長及び出席理事(指名された議事録署名人)、監事がこれに署名捺印する。

令和4年3月18日

一般社団法人 日本私立薬科大学協会

議長 井上圭三
(押印済)

出席理事 岩城正宏
(議事録署名人) (押印済)

出席監事 富田基郎
(押印済)

出席監事 市川厚
(押印済)